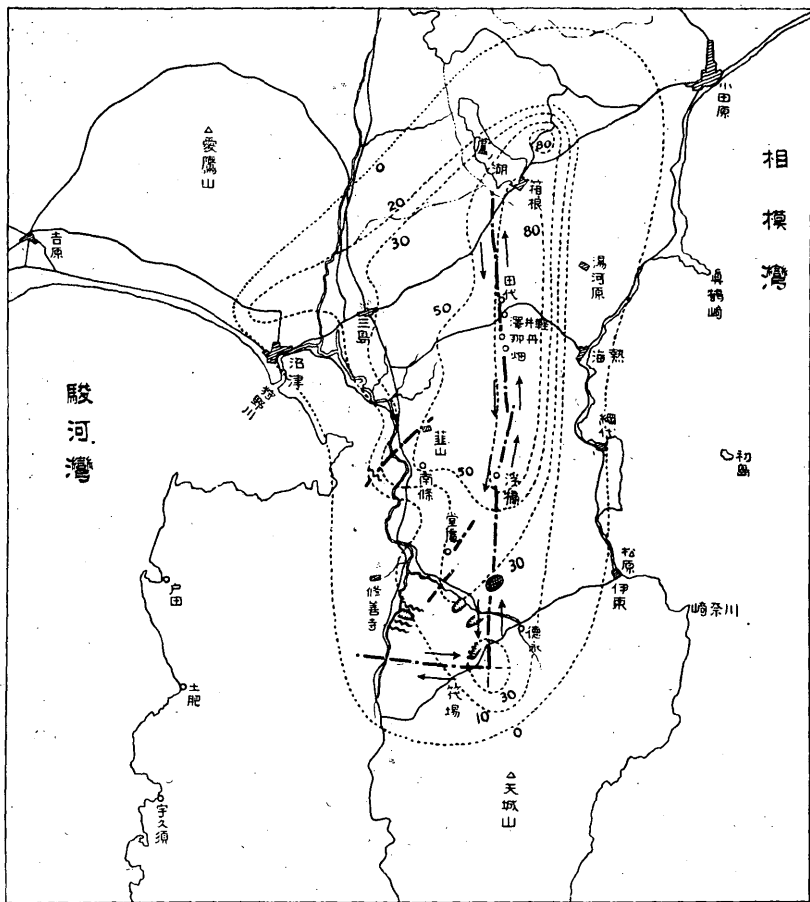


圖布分害被及層斷震地豆伊北



-----	断	層	●	陥	没	地	帯
-----	倒	潰	家	屋	等	百	分
-----	損	傷	率	線			
	(古			帯	數	=	対
				比	)		



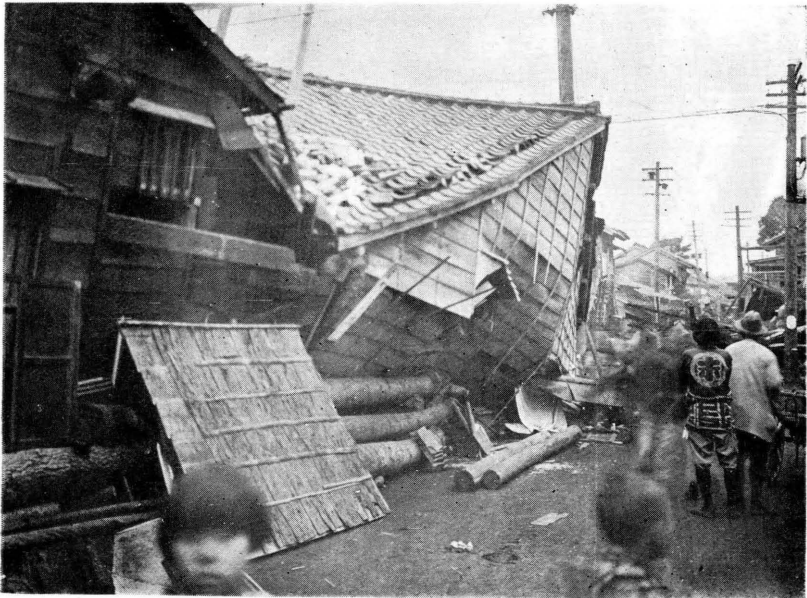
潰倒の祠小内境社神島三 圖一第



潰倒の籠燈石内境社神島三 圖二第



潰倒家民るけ於に町島三 圖三第



潰倒家民リ通町保久町島三 圖四第



三島久保町の壊倒 第五圖



駿豆線沿線民家の潰倒 第六圖



潰倒の場大村里中 圖七第



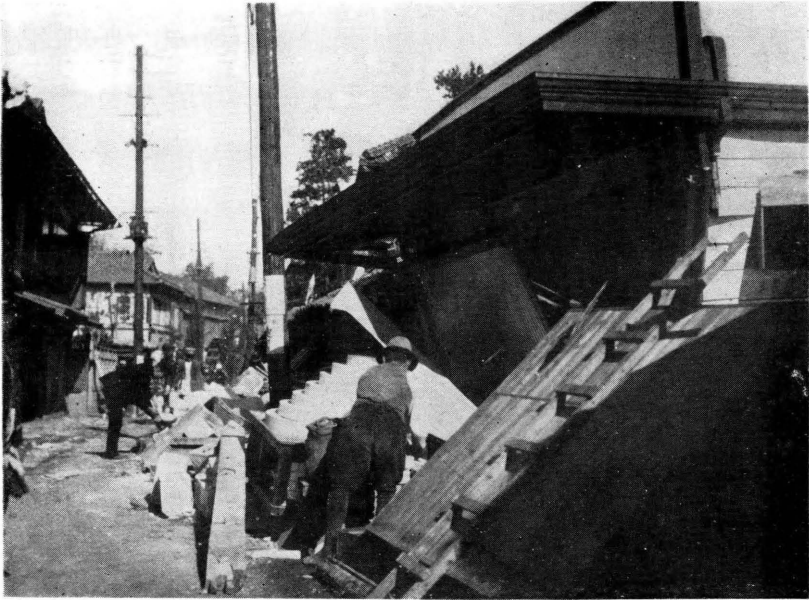
潰倒家民るけ於に場大 圖八第



第九圖 古奈溫泉



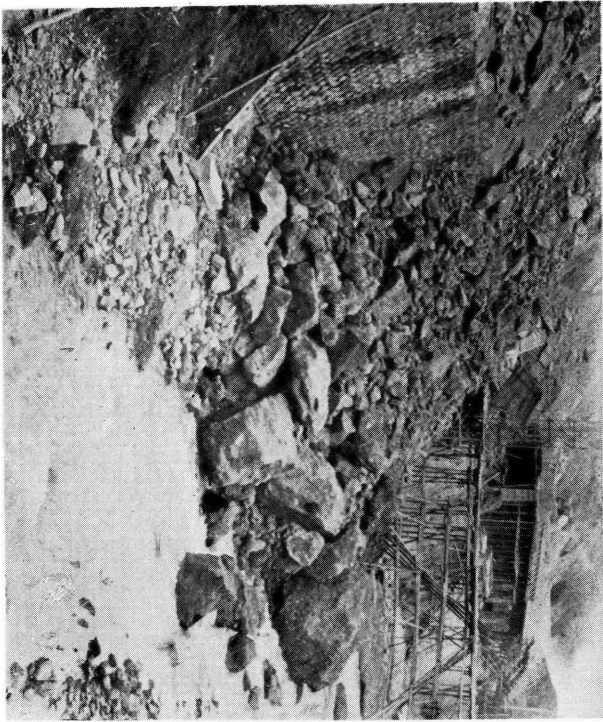
第十圖 長岡溫泉民家の潰倒



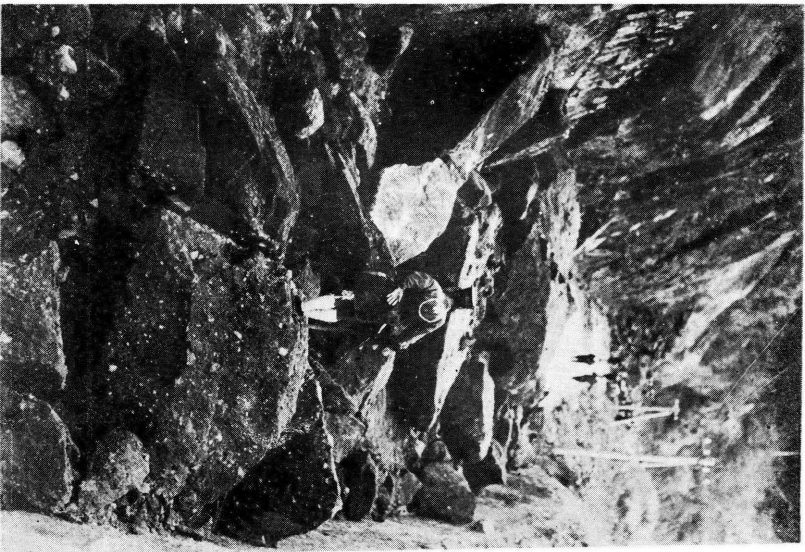
(半上の家階二はるて立) 屋家潰倒泉温岡長豆伊 圖一十第



(りな半上の家階二はるて立) 潰倒家民るけに於に泉温岡長 圖二十第

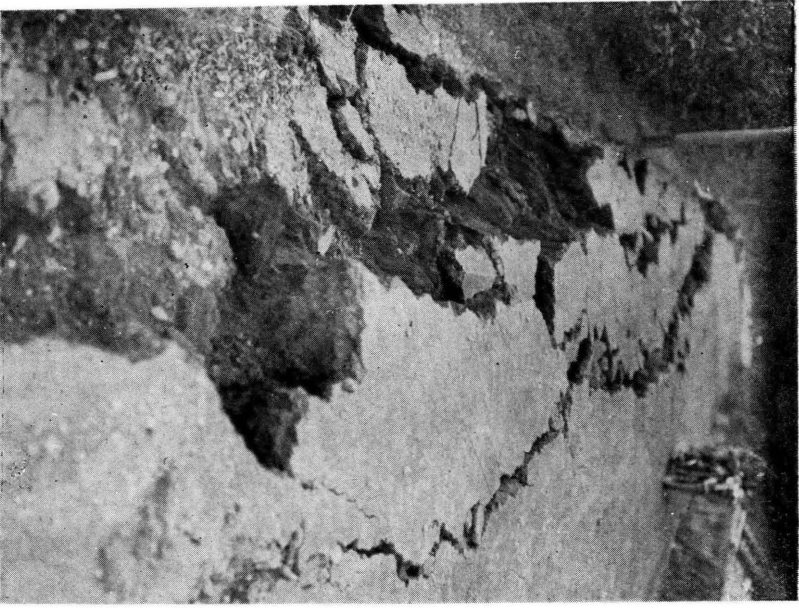


れ崩崖るけ於に川早澤の塔 圖四十第



れ崩崖の近附澤の塔根箱 圖三十第





路道の上町五納リと澤之塔根箱 圖六十第



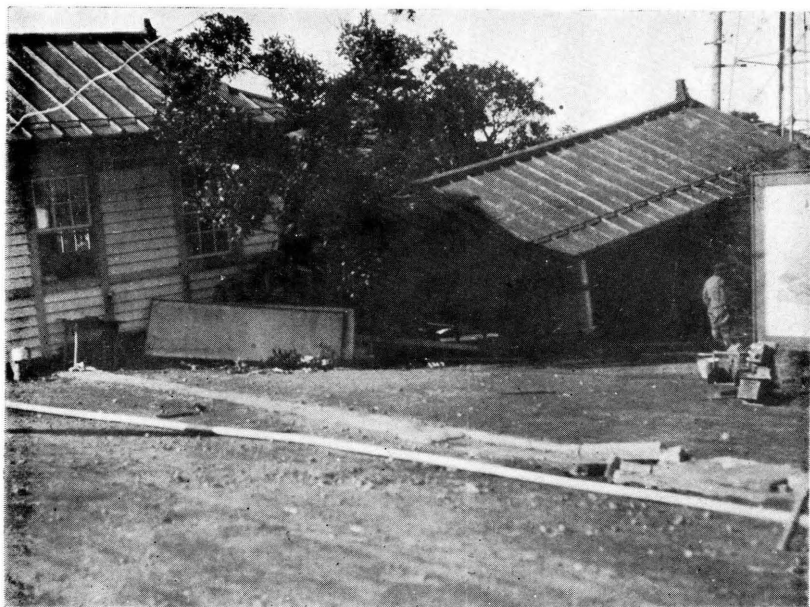
上丁十リと町根箱・峠三十道海東 圖五十第



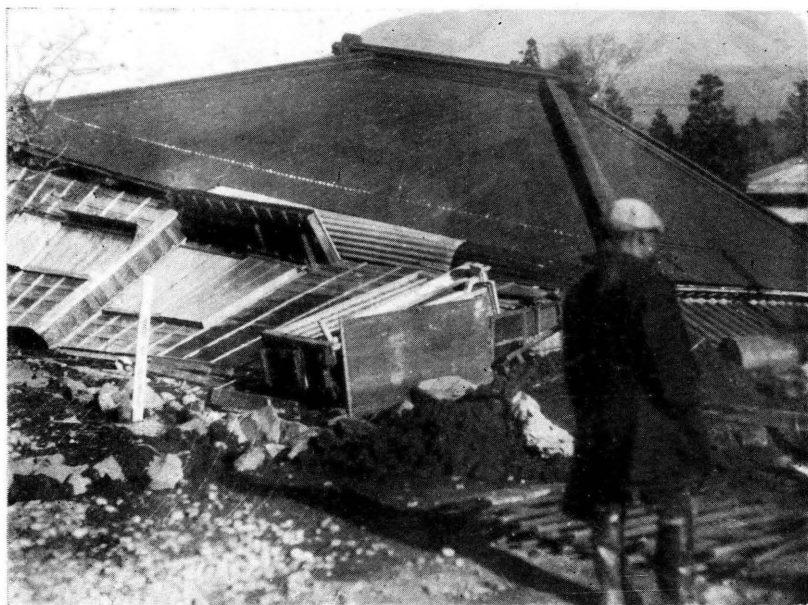
箱根町根箱の中央潰倒の屋家の傾きは側屋の根が其の儘落ちのもしりな 圖七十第



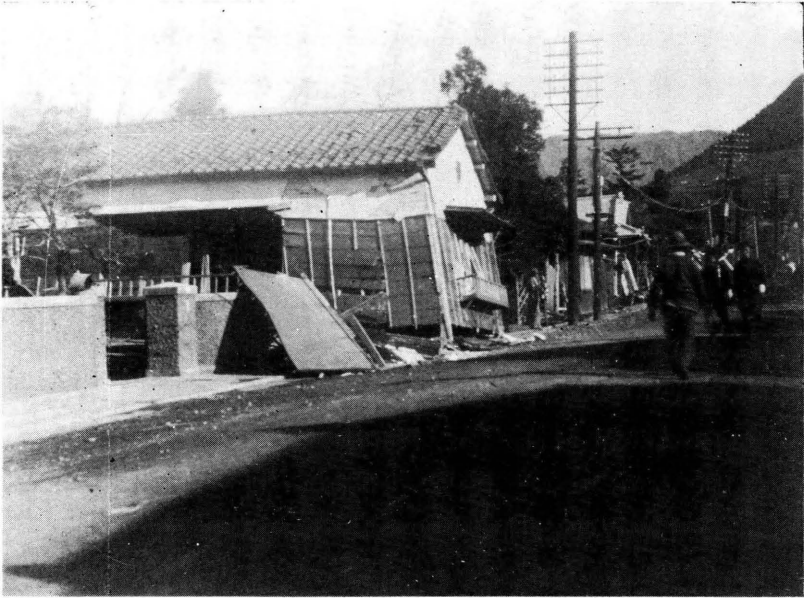
箱根町東側澤入山の津浪 圖八十第



箱根町富士屋自動車待合室の階下し庫傾きのものなり 第九十圖



箱根町家の屋の潰倒 第十二圖



箱根町根箱の中央潰倒の屋家の二階が落ちたものも（獨人シムツト氏宅） 圖一十二第



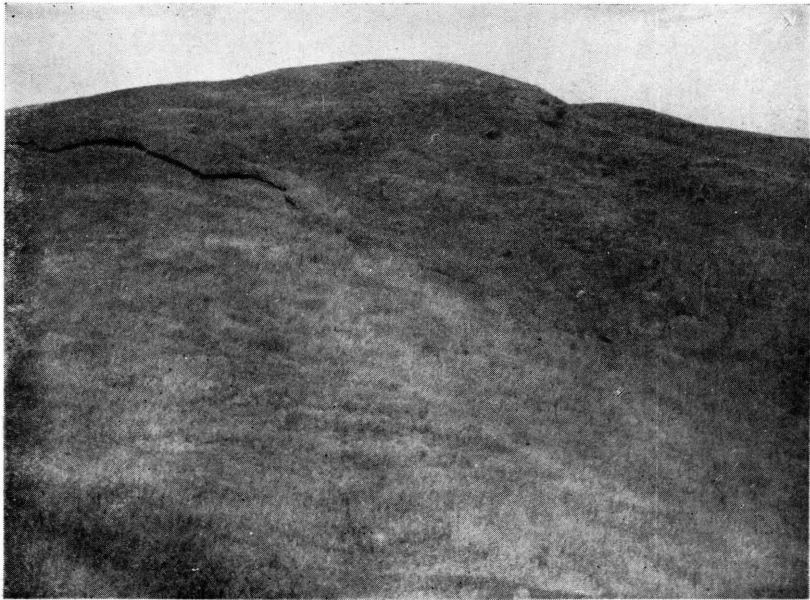
箱根町離宮の崩屋及び官舎の埋没 圖二十二第



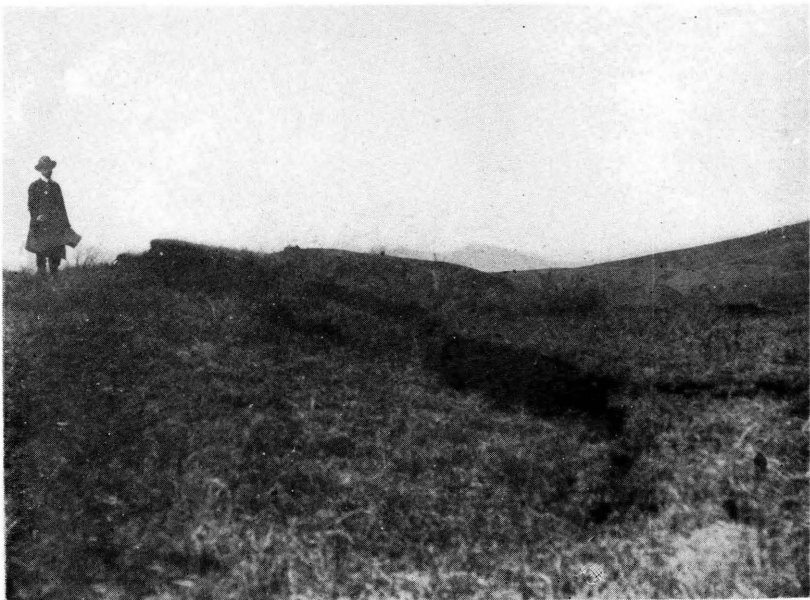
浪津山の山入澤町根箱 圖三十二第



層斷ひ違喰の路道るけ於に町根箱 圖四十二第



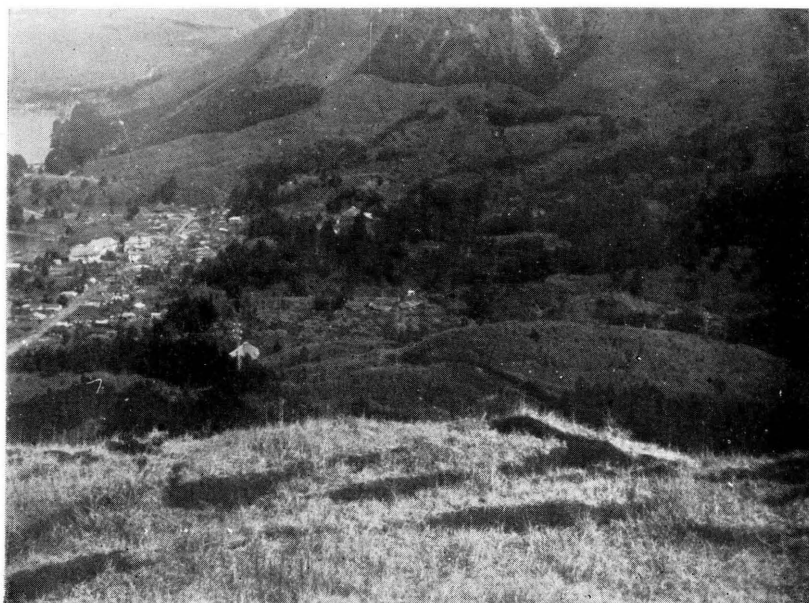
りな裂龜るけ於に所の町五南りよ山掛鞍・近附山掛鞍 圖五十二第



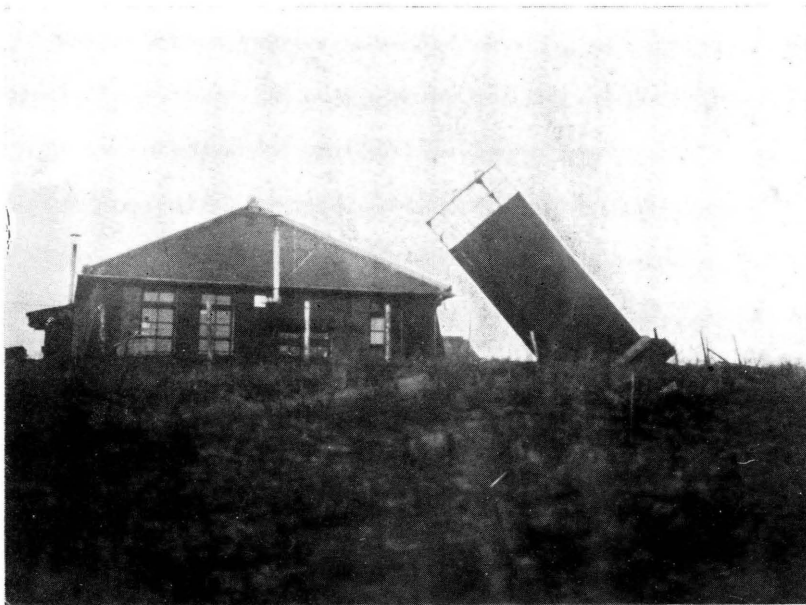
け於に（地高の西々北池ケ馬野）腹山掛鞍・裂龜の山掛鞍 圖六十二第  
りな裂龜る走に南東りよ西北る



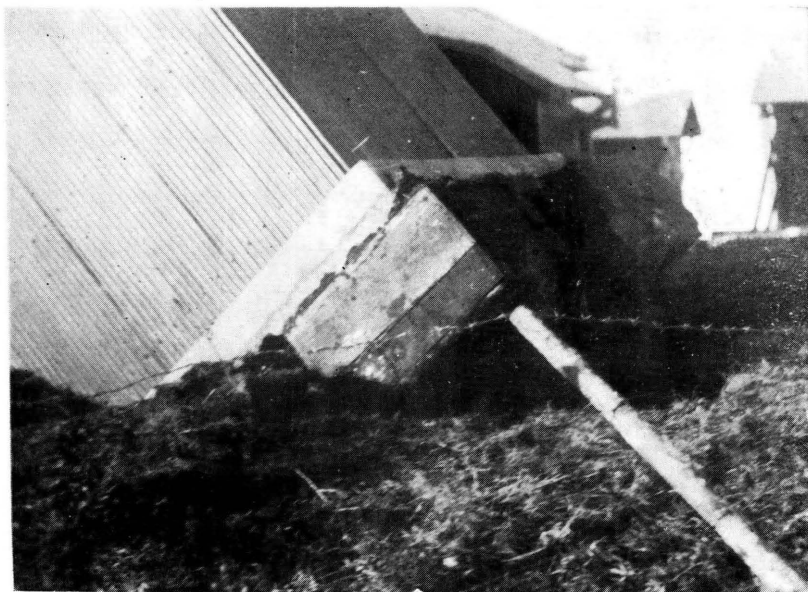
りな裂龜の路道の中途る到に町根箱りよ所候測山根箱 圖七十二第



央中、む望を町根箱りよ(地高の西北北の池ヶ馬野)腹山掛鞍 圖八十二第  
 りへ沿に線高等は裂龜るえ見に面前てしに浪津山はるえ見に  
 (りぜ生を裂龜に南東りよ西北はて於に南りよ之)



（る倒度五十四約塔力風）所候 測 山 根 箱 圖九十二第



る倒に方しりあり張の線電他のを線ナテナのもしき傾の塔力風の所候測山根箱 圖十三第





潰地大腹山南西山根箱 圖一十三第



向に西は軸しなを形蹄馬面ち落り込の縁上の部没陥・腹山西南山根箱 圖二十三第



第 三十三圖 田代根間山間路(ツラト、ルーモ)の傾斜の上方に押し上げられ、下方の斜傾の寫り、東起隆ツラト、ルーモ間根箱代田



第 四十三圖 田代根間山間路(ツラト、ルーモ)の方向は西に連る



合場きな少斜傾共れな間山、罅裂行雁間根箱、代田 圖五十三第  
ずれらへ考とのものめ爲のり下りズてに



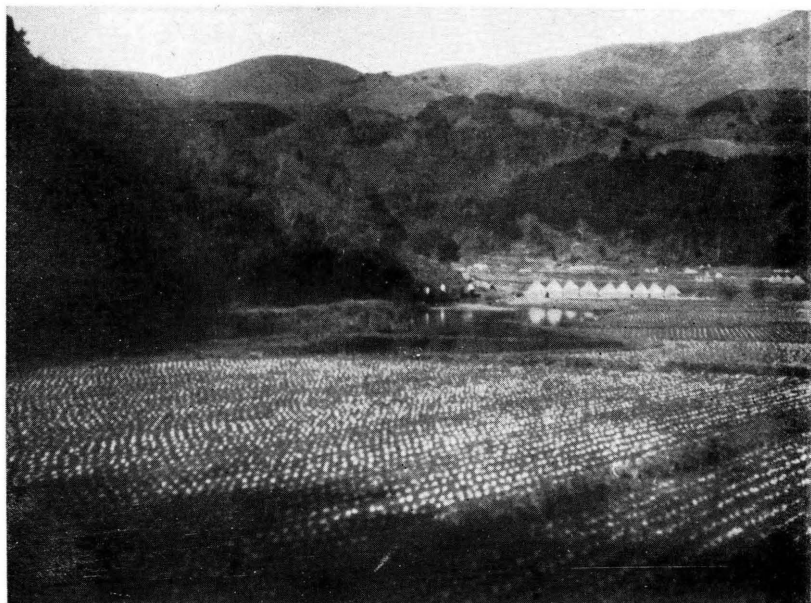
きな少斜傾共れな間山罅裂行雁き向西東間根箱、代田 圖六十三第  
ずれらへ考はとめ爲のり下りズてに合場



に更が部起隆す示を起隆の部力歴、罅裂形光電地山方北代田 圖七十三第  
す動移に平水、し斷切に角直



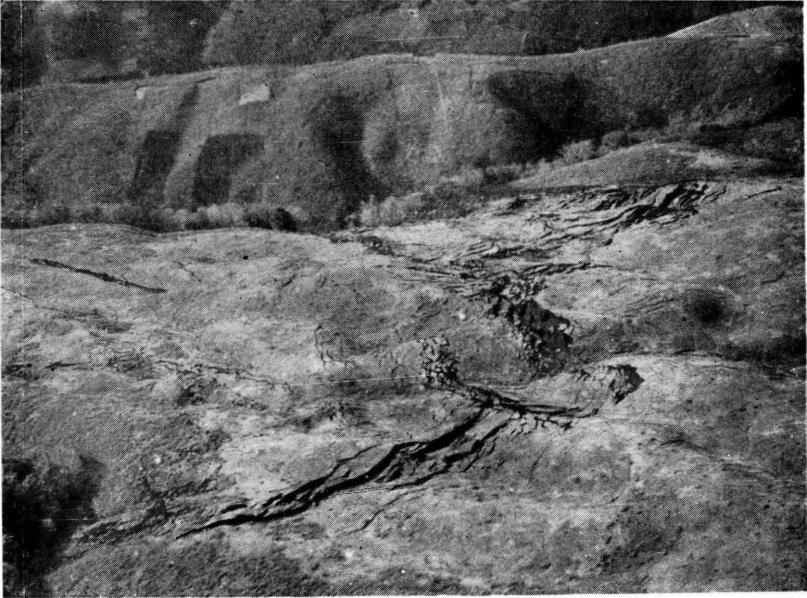
るな角直とれ夫、罅裂力張分部るげ跨、罅裂形光電、地山方北代田 圖八十三第  
線層斷主北南のもるあに方後の人るせ立直、罅裂力歴は



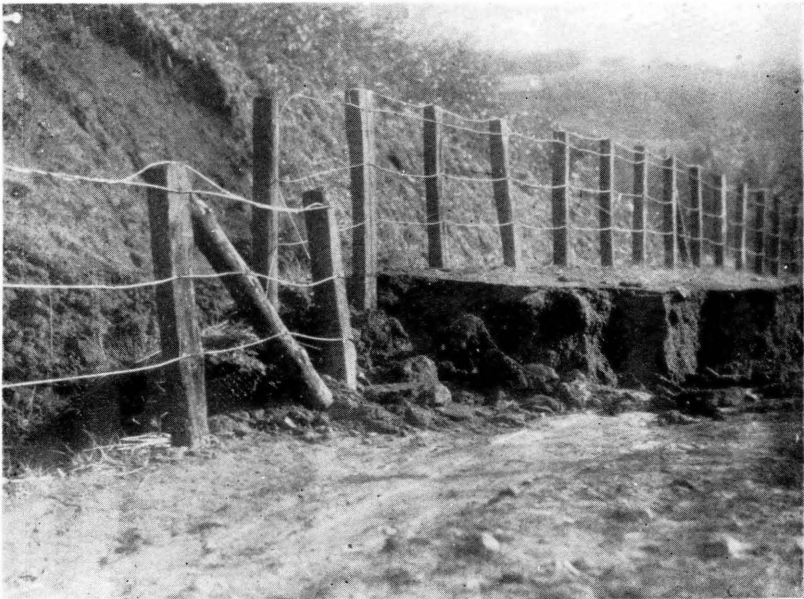
落陷側東リ溜水め爲の落陷面田及れ崩崖・谷水排方北代田 圖九十三第



す動移へ南・起隆側西層斷の地畑方南代田 圖十四第



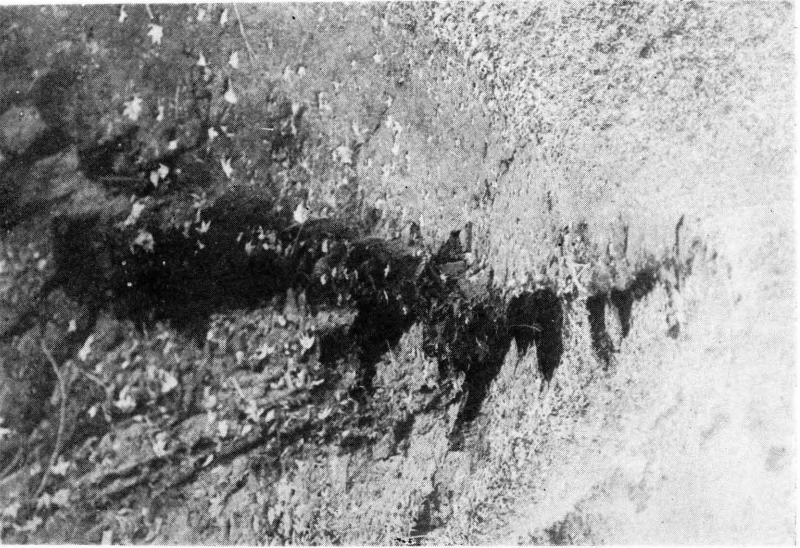
裂 龜 近 附 山 金 日 根 箱 圖一十四第



ひ 遣 喰 る よ に 層 斷 主 る け 於 に 近 附 那 丹 圖二十四第



る切横を地別層斷主るけ於に閉西南地盆代田 圖六十四第



層斷主る走を方西 地盆代田 圖三十四第



潰倒家民の上層斷主面前と景全部澤井輕 圖七十四第



潰倒家民の上層斷主落部澤井輕 圖八十四第





潰倒の家民の上層断るけ於に澤井輕 圖九十四第



潰倒の家民の上層断るけ於に澤井輕 圖十五第



てう治に層斷の線北南中途る至に賀名りよ深川輕那丹 圖一十五第  
 (りよ方南)る見を下沈の糧六地畑

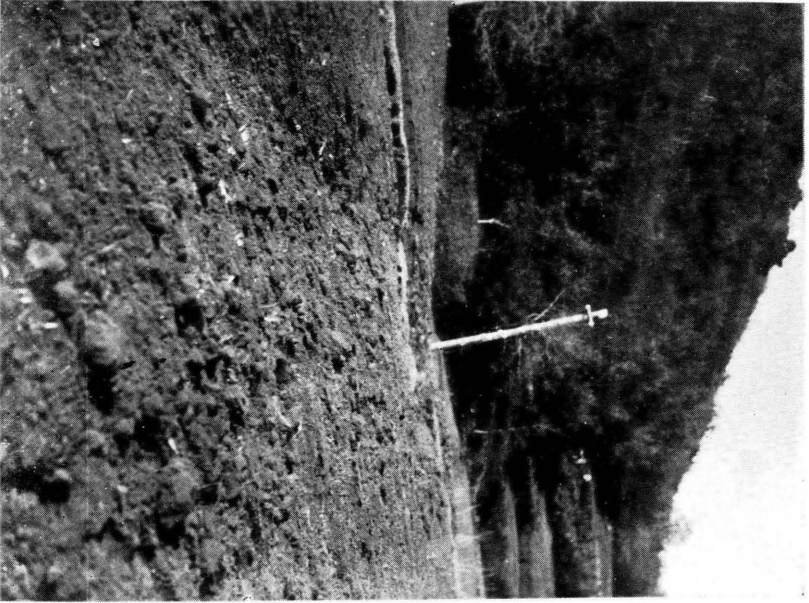


(路道の近附畑るす位に端東口南地盆)端南の地盆那丹 圖二十五第  
 む望を線層斷の北南るれ走に森の口川央中りよ



てへ越を路道綫層斷の北南中央の地盤那丹  
る見をす倒を竹てし入突に篠竹

圖四十五第

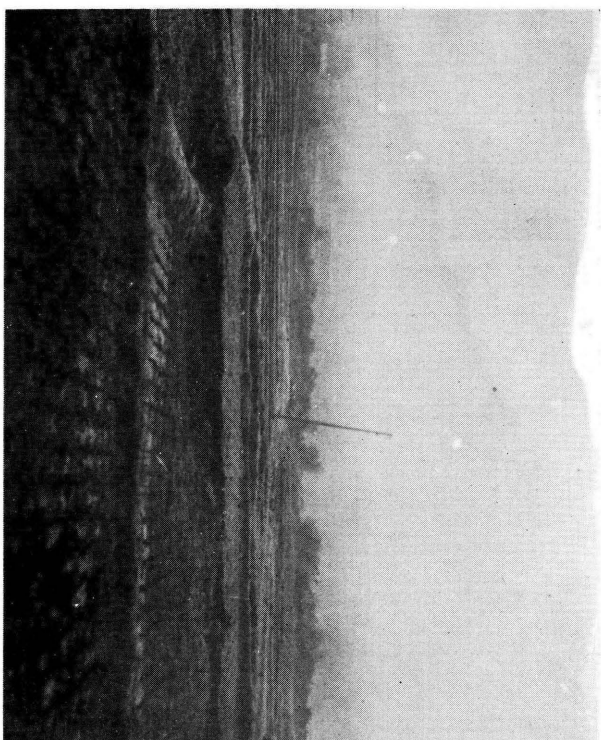


北側、地知の中途る主に賀名りよ澤川堰那丹  
をるせ起隆の側西りよ側東てひ治に綫層斷の  
(す寫りよが南)る見

圖三十五第



裂縫 大の地盆那丹 圖六十五第



(低東・高西) る過を地川層斷主の地盆那丹 圖五十五第



丹那賀部北主方層麥畑を畑に喰ひ生ず 圖七十五第



丹那賀部南地方田地に於ける主層(高西、低東) 圖八十五第



(りれ下側東、く高は側西) 層斷那丹 圖九十五第



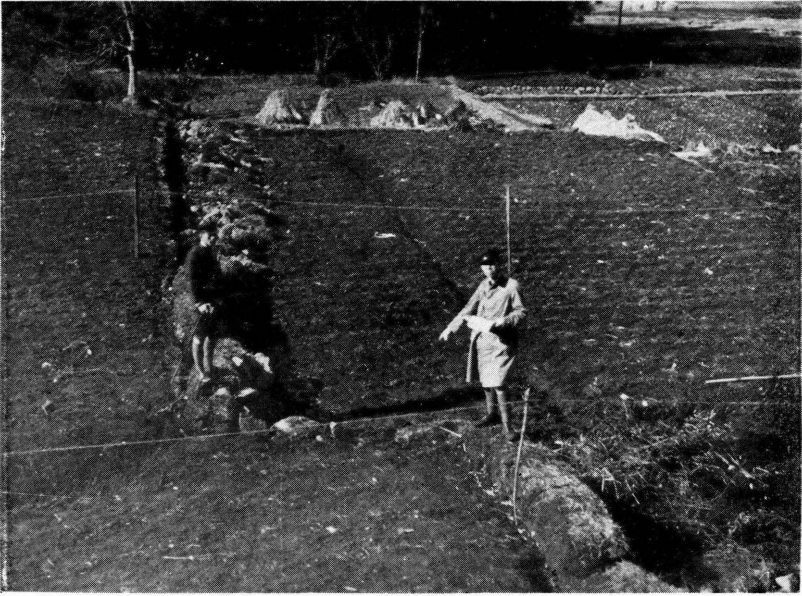
(種〇六) ひ違喰の田央中地盆那丹 圖十六第



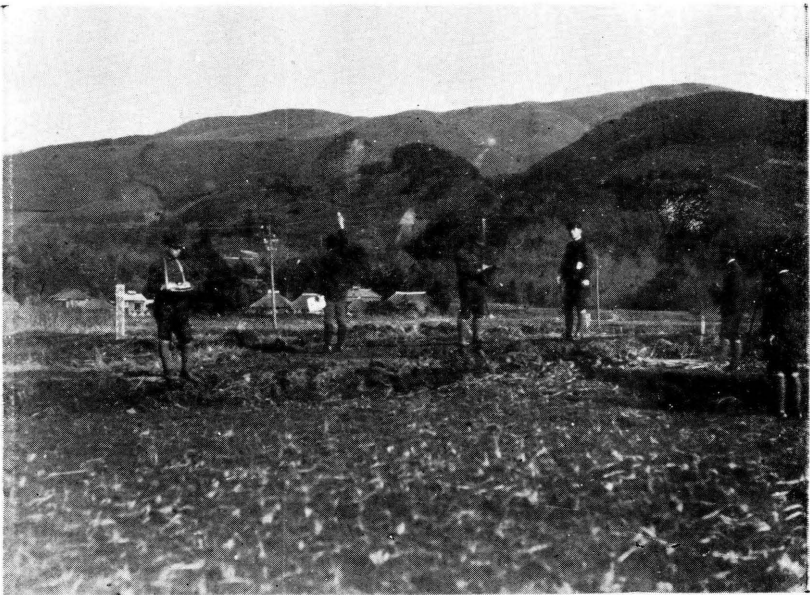
ひ違嶺の路道るよに層斷主の内地盆那丹 圖一十六第



(る撮りよ方北) 層斷主る走を南地盆那丹 圖二十六第

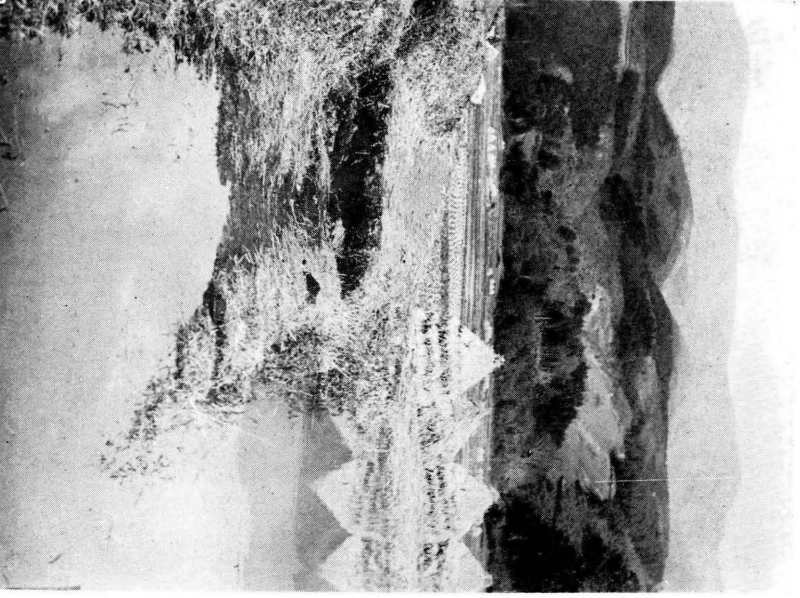


第 36 圖 丹那盆地、乙越中間の斷層層喰ひ(西高、東低)二米毎



第 46 圖 丹那名賀及川口邸中間、北東向きに操作(東高、西低)





び連喰の田ふ沿に層斷主方南地盆那丹 圖六十六第  
る下は方東、リ上は方西



ひ連喰の道畦ふ沿に層斷主地盆那丹 圖五十六第



(低東、高西) ズ生をひ違潰りよに層斷、田の近附落部知那丹 圖七十六第



りせ潰倒りよに層斷家民の落部知那丹 圖八十六第



(五米一差落) 潰倒の家民の上層斷端南地盆那丹 圖九十六第



ひ運唄の道畦るけ於に落部畑端南地盆那丹 圖十七第



近附山池の中途る至に橋浮りよ那丹 圖二十七第



半町一約幅りな落陷の間谷側西の岳玄南の地盆那丹 圖一十七第  
りな尺二約差落てしに



近附山の池中途る至に橋浮りよ那丹 圖三十七第



ひ違喰の路道るけ於に端北の橋浮 圖四十七第



帶地起隆るけ於に城字村見大中 圖五十七第



帶地沒陥るけ於に城字村見大中 圖六十七第



(一の其) す寄押に岸對てし越を川小れ崩山るけ於に保原 圖七十七第



(二の其) れ崩山るけ於に保原 圖八十七第



(へ西北及西は向方) 潰倒居鳥石の祠神水引菅 圖十八第



りよ方南線層斷主の北南るけ於に保原 圖九十七第





層斷る走に西東・道縣る至に湯の姫りよ保原 圖二十八第  
 方上・裡○六橋の築新し裂龜路道てひ沿に線  
 りよ方東・す示をるせ下沈近附てり残に



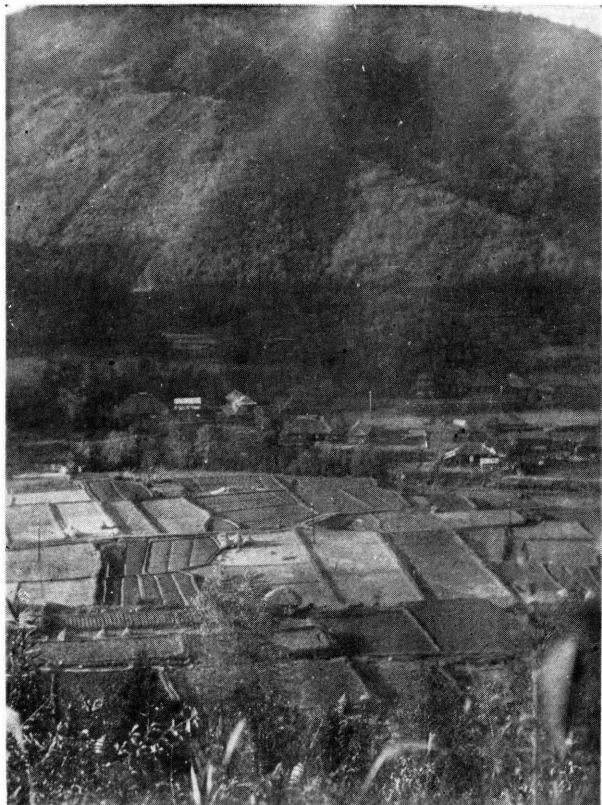
山の間湯の姫保原に爲の線層斷る走に西東 圖一十八第  
 よ方南・態狀るすとんれ崩や今路道れ崩腹  
 りたれさか脊に震餘時當影撮り



け於に上線層斷の西東)ひ違ひ喰の防堤るけ於に保原郡方田 圖三十八第  
 (りなのもる



裂龜るけ於に中山方西の湯の姫 圖四十八第



一唯るす位に上線層斷る走に西東・落部湯の姫 圖六十八第  
 少りよ柱電の央中・る見をるたれ破の屋家の軒  
 (す寫りよ方東)得し跡追を線層斷に田の方右し



るれ走に西東」の道縣る至に湯の姫りよ休原 圖五十八第  
 杉山の間中のと湯の姫と保原てひ沿に線層斷  
 (す寫りよ方南)「のもるたれ崩の林



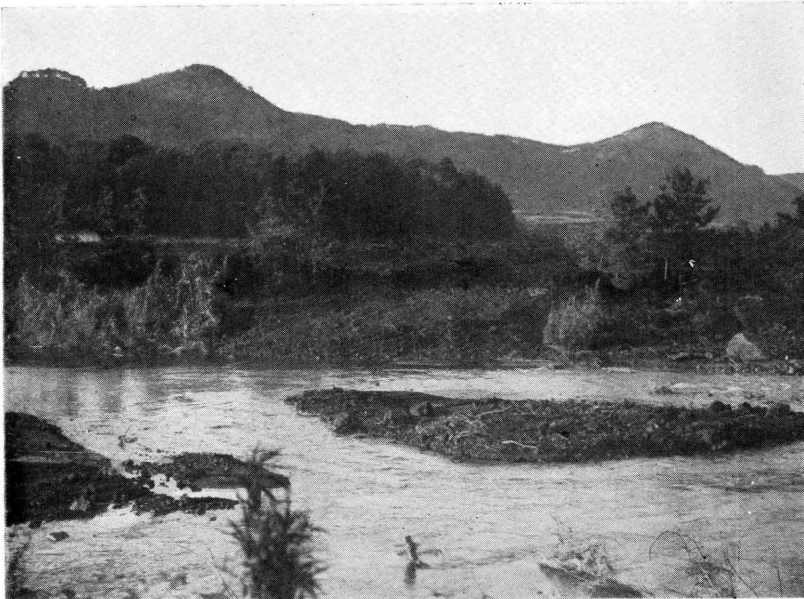
潰倒の校學小野大 圖七十八第



りたれずに方南東糧〇二約りよ石臺土は屋家、井平 圖八十八第



す寄押に畔河川野狩浪津山の山野奥(一其)れ崩山山棍 圖九十八第



(二其) れ崩山山棍 圖十九第



中地田てりぎ横を路道の間のと殿加と代田・層斷殿加村野狩下 圖一十九第  
 (す寫りよ東南)る走に東北を



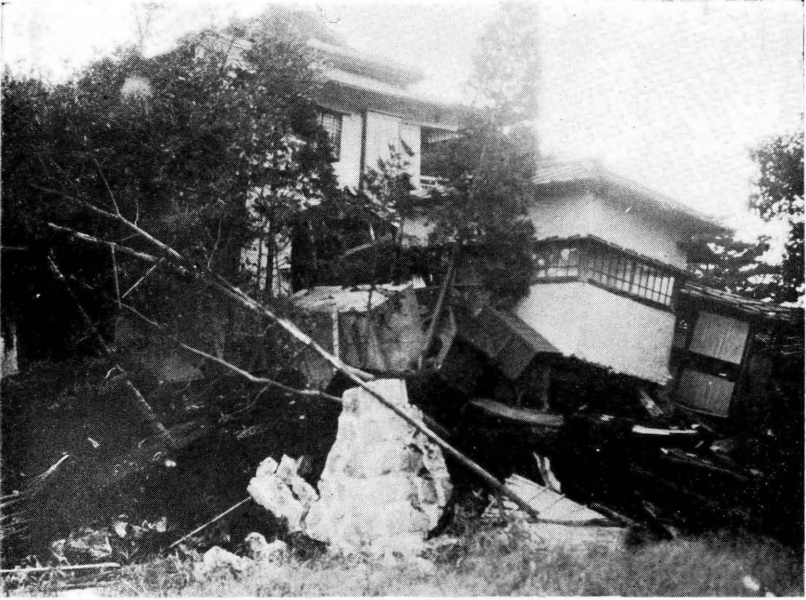
む望りよ東上同・層斷殿加村野狩下 圖二十九第



れ崩崖の近附岬見魚海熱 圖三十九第



(る互に餘町一さ長)れ崩崖の近附崎黒大間海熱、原河湯 圖四十九第



莊別氏某の町海熱 圖五十九第

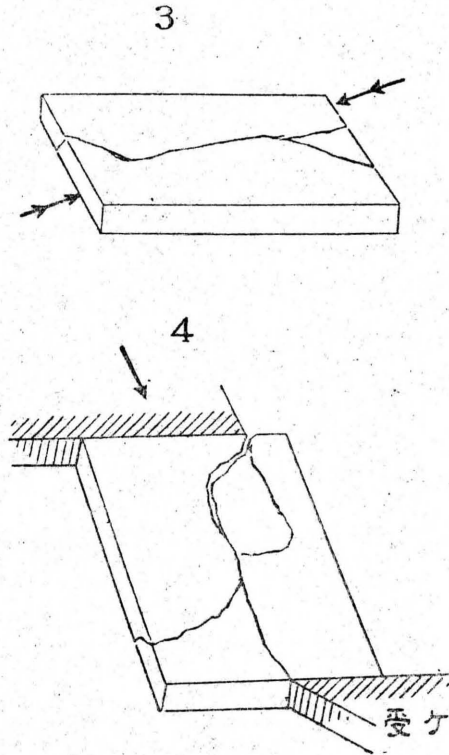
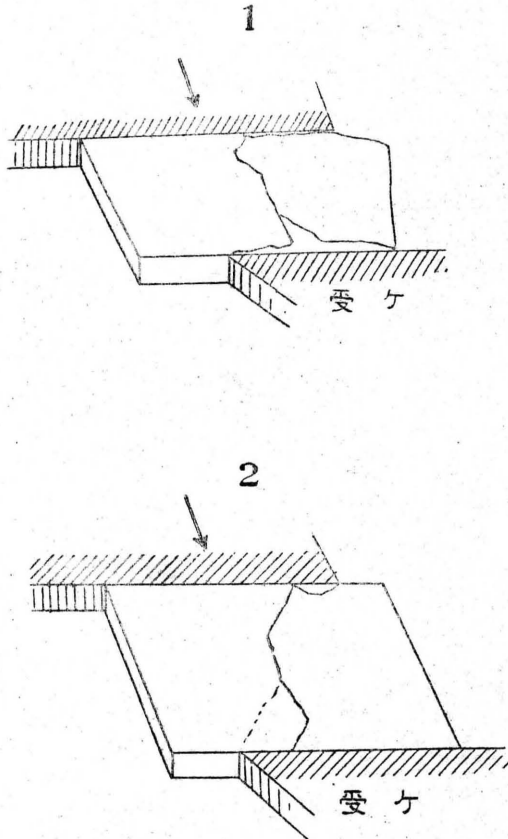


潰倒店賣前驛海熱 圖六十九第

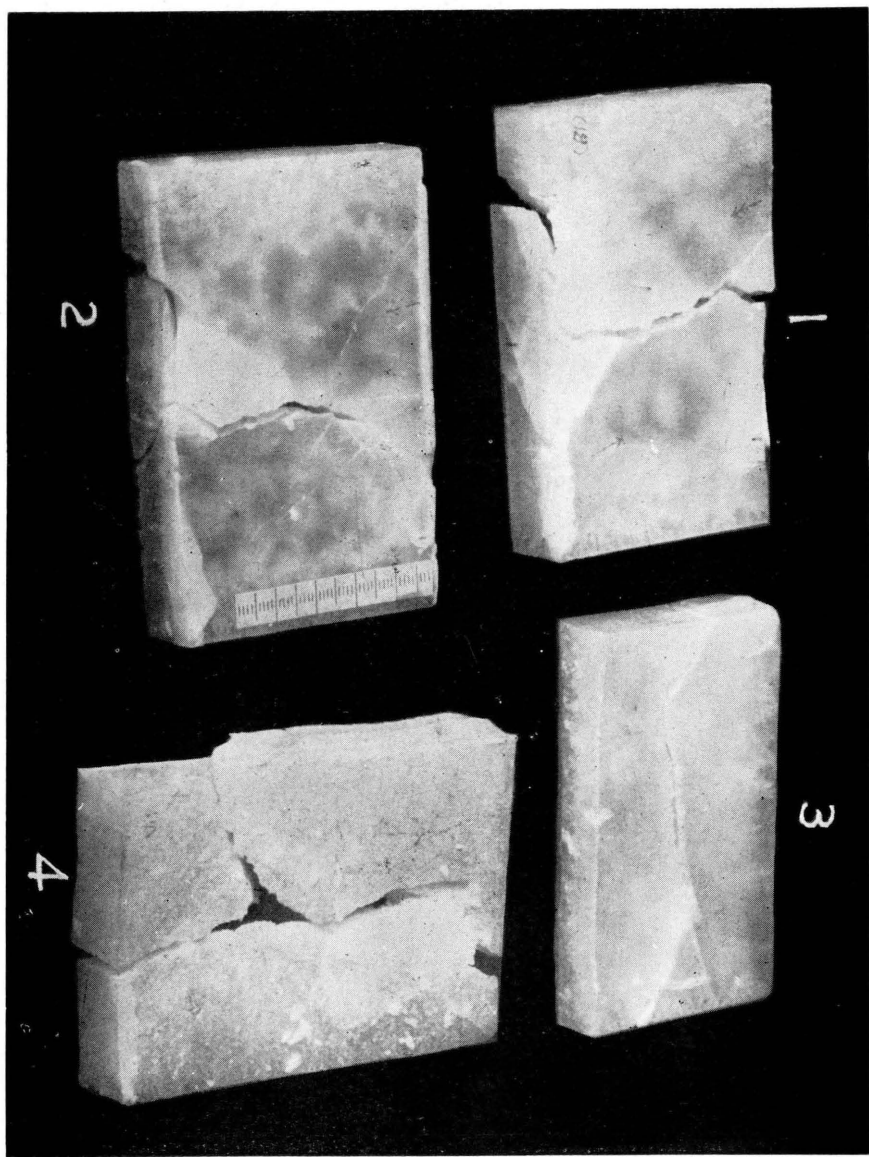


### 模型實驗說明圖

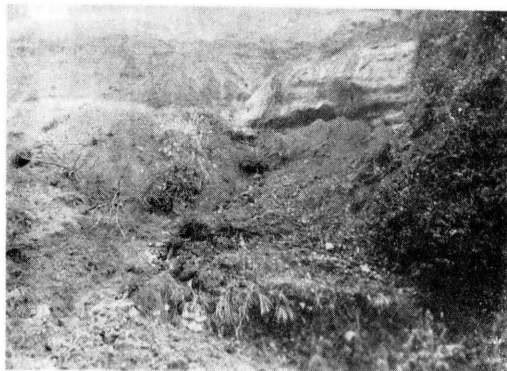
茲に示すは全部パラフィン實驗なり。3、4は押し及受けの合せ方淺く、從て横裂發達著しからず、縦及斜裂のみあり1及2は合せ方深く從て横裂は縦裂斜裂と比較し得る程度に發達しあり、2の下部の横裂は寫眞に見ゆれども圖にては畫工が書き洩したり。1、2等が今回の斷層系と類似す。



模 型 實 驗 寫 真 (藤原報文附圖)



(圖附告報多本) 眞 寫 り 之 地 縣 山 富



しべる見をしち落れ崩みの壤土の層表 岡吉



上地三丹に爲るす下低に第次側左の地宅 岡吉  
しべる見を様るせげ

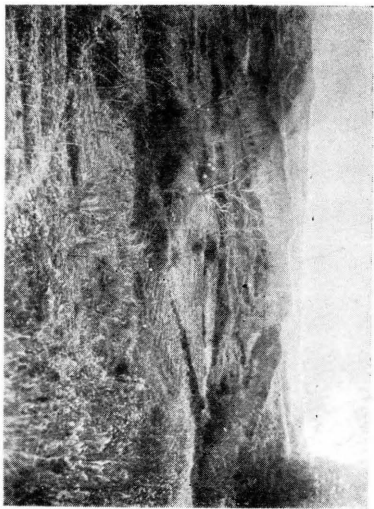


岡吉

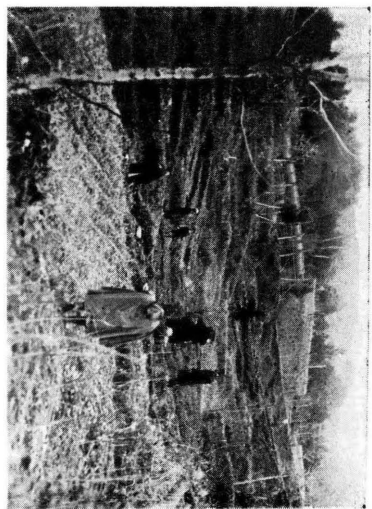
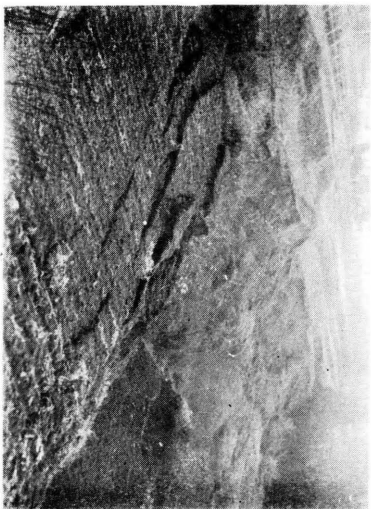


宅氏郎三地菊るせ轉移へ他頃日七十二月一十 岡吉  
リせ落陷測左跡

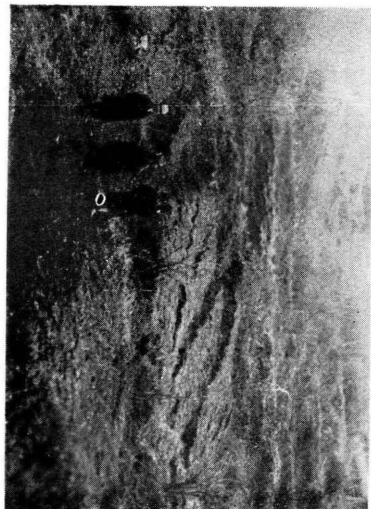
富山縣地窟ノ異本報附圖



圖吉

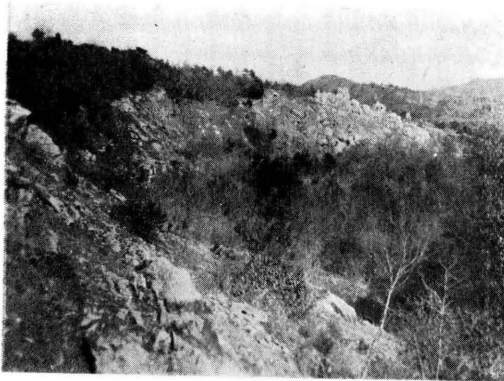


圖吉

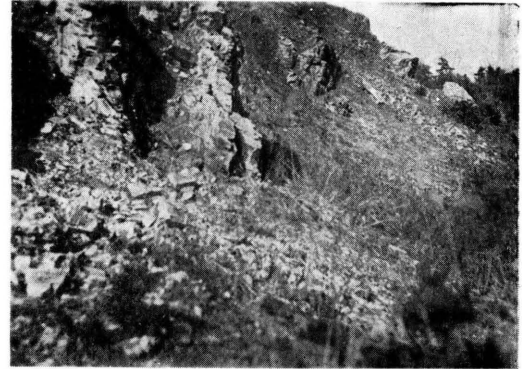


圖吉

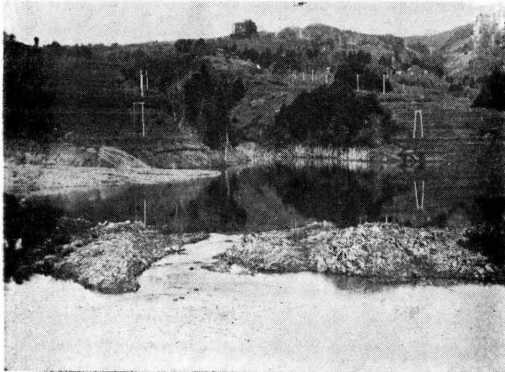
(圖附告報多本) 眞 寫 り 三 地 縣 山 富



見國



方じ同と腹山に後しち流れ崩の壤士の層表 見國  
しべる見をるせ出露の岩成水るせ層成に向



池しり作てめ止き堰を川に爲のり三地 見國



見國